

令和8年度

事業計画書

学校法人 四條畷学園

創立100周年

— 中期計画の総仕上げ —

令和8年4月1日

内容

令和8年度事業計画書の策定にあたって.....	2
長期ビジョン・中期計画の全体イメージ.....	3
長期ビジョン・学園宣言の基本的考え方.....	4
中期計画の骨子.....	6
事業計画.....	7
法人本部.....	7
大学.....	10
短期大学.....	13
高等学校.....	16
中学校.....	20
小学校.....	29
幼稚園.....	35
保育園.....	40
主な新規事業計画.....	43

令和8年度事業計画書の策定にあたって

令和8年度は、学園にとって創立100周年という記念すべき年であると同時に、第三次中期計画の最終年度となります。本年度は、100周年記念事業と第三次中期計画の総仕上げを行うとともに、次期中期計画の策定など、次の100年の初年度に向けた準備をしっかりと進めていきます。

記念事業の核となるキャンパス整備では、駅前ロータリーの整備と連動し、エントランスや中庭、保育園・幼稚園・小学校送迎進入路を整備し、総合学園にふさわしい駅前キャンパスの一体化を進めていきます。具体的には、現在のバス道を横切るかたちでエントランス門、学園ブランドの象徴である“総合学園”の銘板と「NAWAGAKU」のモニュメントを設置するほか、本館建築時の玄関横の記念レンガに倣い、次の100年へとつなぐ橋渡しの意味を込めて、今の時代をともに歩む生徒や教職員の記念銘板（飯盛嶺歌壇歌集の転写）を「さんくすろーど(感謝の小径)」（バス道跡の愛称)の本館近くの路面に設置します。

また、記念行事については、「退職教職員の集い」（1月10日）を皮切りに、「学園新聞記念座談会」（1月23日）、「記念南枝会」（5月23日）、「全学人権記念研修会」（8月24日）、「記念式典・記念講演会・記念パーティー」と「ホームカミングデー」（10月24日）、幼小中高を中心とした「記念音楽祭」（11月8日）を計画しています。

これらの記念事業を着実に進めるとともに、「私たちの記念日はお祭り騒ぎであってはならない。」という創立10周年の教訓に立ち返り、本年度を単なるお祭りで終わらせるのではなく、創立者の思想を現代の教育実践に具現化するスタートの年とします。

特に、コロナ禍以降、SNSでの誹謗中傷や共感性の欠如といった「人とのつながり」の難しさによる運営上の様々な問題が、学園の教育現場で顕在化しています。加えて、AIの急速な普及に伴う教育の本質的な問い直しが求められています。このような時代の変化について、創立者がこだわった「人をつくる」教育が再評価される時代の到来と捉え、創立100周年を機に策定したクレド（行動指針）において、目指すべき人物像と学びのかたちを以下のように定義しました。

【育てたい人物像】→実践を尊び、社会で自立・自律できる人材。

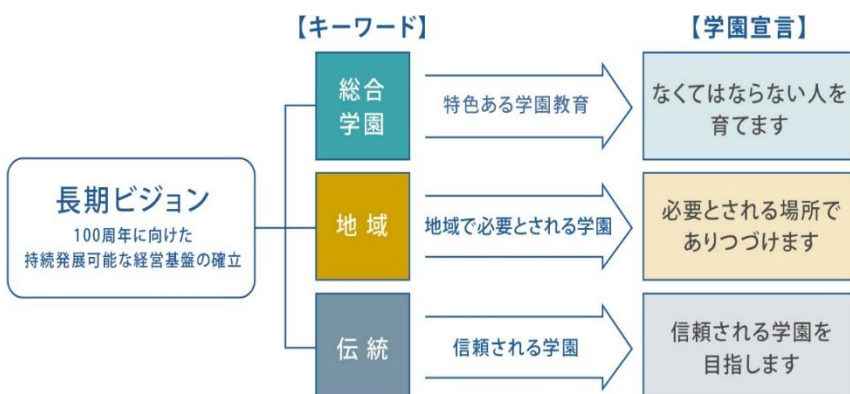
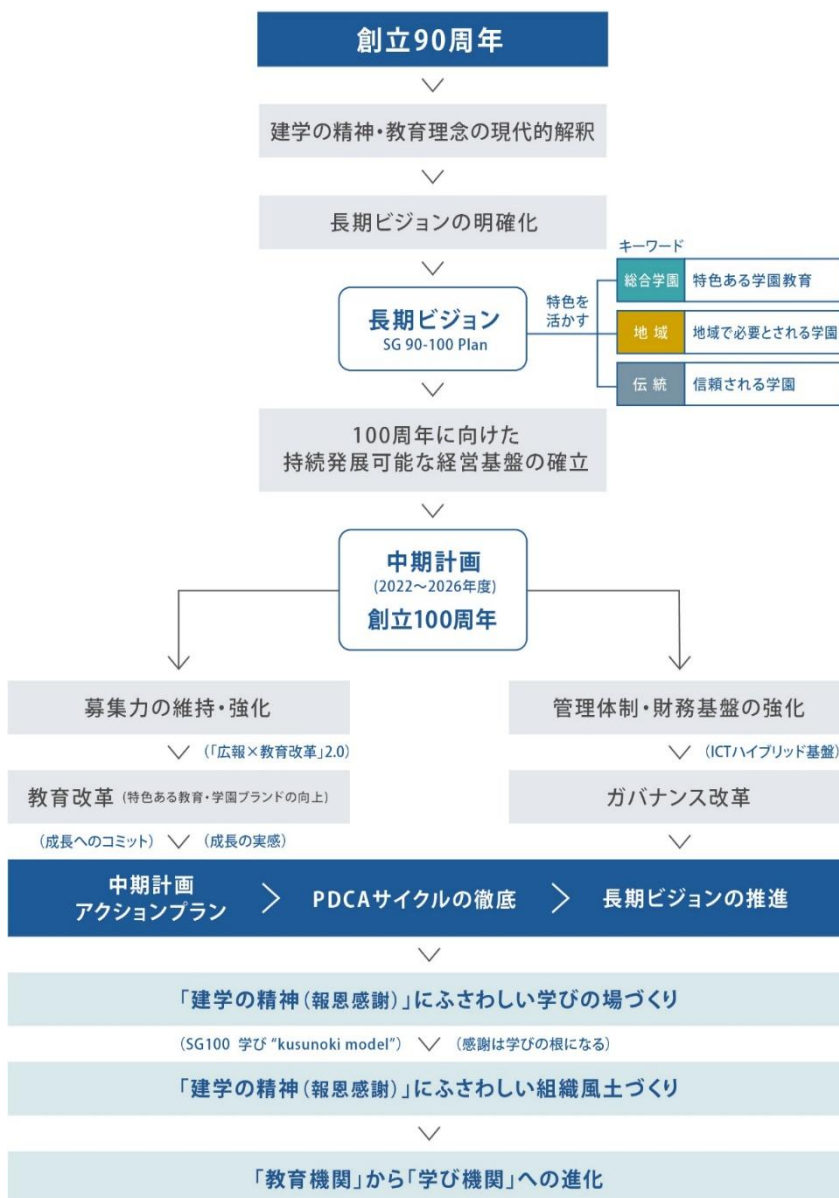
【学びのかたち】→知識や礼儀に加え、体験を通じた「人とのつながり」など、経験という“豊かな学び”を贈り続けること。

また、創立者の「自分を磨き続ける」精神を継承し、100周年のタグラインを「学ぶ喜びをずっと。」として、学園が目指す「ロールモデル」を明確化しました。具体的には、学園の原点である建学の精神「報恩感謝」、教育理念「実践躬行」、教育方針「礼儀と品性」を礎に、「感謝をモチベーションに変える力」「一歩踏み出す勇氣」「思いやりをかたちにする力」を備えた人材の育成に注力していきます。

以上、100周年にふさわしい年にするために、各校園が取り組む教育活動の意義を再確認し、学園教育を磨き続ける「実践躬行」の機会にするとともに、創立者が生涯をかけて追求した「人をつくる」という営みを次の100年に向けた学園ブランドとして定着させ、安定的な経営基盤につなげてまいります。

学校法人 四條畷学園
理事長 小谷 明

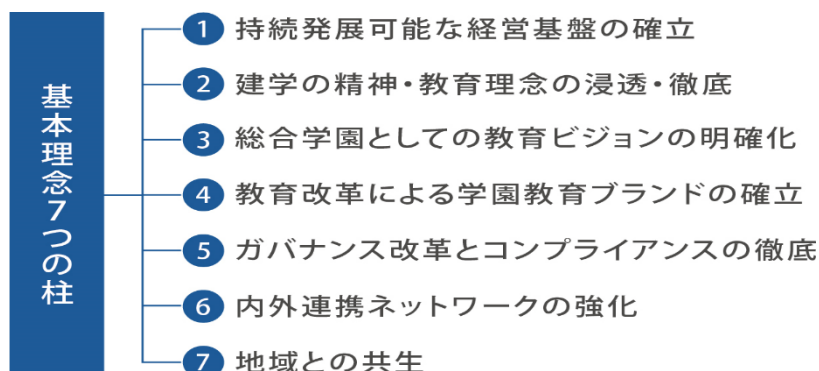
長期ビジョン・中期計画の全体イメージ



長期ビジョン・学園宣言の基本的考え方

1. 基本理念

今回の長期ビジョンでは100周年をいかたちで迎えらるよう七つの基本理念を設定して検討を進めました。



① 持続発展可能な経営基盤の確立

100周年に向けた「持続発展可能な経営基盤の確立」のために、中期計画のテーマである「募集力の維持・強化」と「管理体制・財務基盤の強化」に取り組みます。

② 建学の精神・教育理念の浸透・徹底

90周年を機に、建学の精神・教育理念の現代的解釈に基づき、総合学園としての「学園教育の特色」「育てたい人材像」「学園教育ブランド」の関係性を整理し、浸透・徹底を図ります。

③ 総合学園としての教育ビジョンの明確化

各校園の伝統的な「体験型教育」「基礎教育」「人間教育」を学園全体として捉え直し、進化させ、新たな教育ニーズにも応える学園版「アクティブラーニング」に取り組み、総合学園としての教育ビジョンの明確化を図ります。

④ 教育改革による学園教育ブランドの確立

現場の教育実践が学園教育ブランドとして発信力を持つよう、学園らしい「実践躬行」を通じた教育現場主導の教育改革を推進します。

⑤ ガバナンス改革とコンプライアンスの徹底

全学的な改革を推進していくためには、理事長・校園長をはじめとする各部署の責任者による各組織体のガバナンスが確立されていること、また、全関係者にコンプライアンス(法令順守)意識が徹底されていることが必要不可欠です。あわせて、財務情報の公開など運営面での透明性を確保していきます。

⑥ 内外連携ネットワークの強化

教学・募集広報両面から内外に開かれたオープンネットワーク型の組織運営により、強みである特色づくりと損益分岐点のコントロールを並行推進します。

⑦ 地域との共生

地域密着型の総合学園として、募集面だけではなく、各校園の特色を活かし、地域との共生のための連携施策を積極的に進めていきます。

2. 長期ビジョンの基本的考え方

【特色ある学園教育】

- 学園には創立以来、徳・知・体の「三育教育」の伝統があり、幼稚園から大学まで各校園ごとに特色ある「体験型教育」「基礎教育」「人間教育」が行われてきました。
- 近年、社会から求められている「実習や体験活動などを伴う主体的・対話的で深い学び」すなわちアクティブラーニングと「三育教育」「実践躬行」を重視してきた学園教育とは考え方や方法が極めて近い関係にあります。
- 90周年を機に、建学の精神・教育理念の現代的解釈を通じ、総合学園としての「教育の特色」「育てたい人材像」「学園教育ブランド」を明確にし、学園の伝統的な「三育教育」や「体験型教育」「基礎教育」「人間教育」の特色を進化させ、新しい時代にふさわしく学園らしい「アクティブラーニング」モデルに挑戦していきます。

【地域で必要とされる学園】

- 「学生生徒・保護者・地域の人々から『必要とされる』場所であり続ける」ためには地域との共生が重要になります。地域で必要とされているか否かの中長期的な評価は募集状況にも反映されます。現状、近隣9市の在籍者依存度は高水準ですが、将来の募集環境の厳しさを念頭におけば、従来以上に、学園ブランドの向上とともに様々な連携施策を通じて地域での存在感を高める必要があります。
- リハビリテーション学部看護学部を加えた保健医療系大学になった今、地域との共生のための知(地)の拠点整備への取り組み等、従来以上に、地域が抱える課題解決のための連携・協働への期待が高まっています。

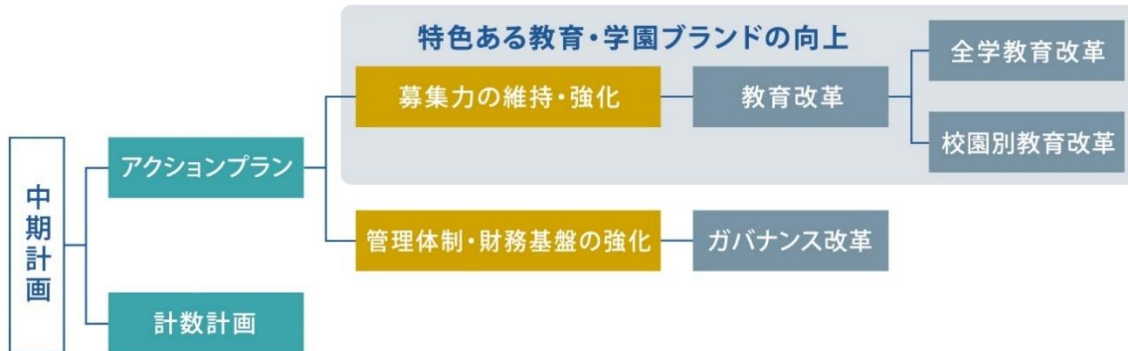
【信頼される学園】

- 90年の教育と経営の伝統が地域や社会から学園に対する信頼の基盤になっています。100周年に向け、引き続き、信頼を重ね伝統を守っていくために、管理面や財務面での運営体制の強化を中心としたガバナンス改革を進めていきます。
- 近年の教育行政によるガバナンス強化の要請の背景には、厳しい環境のもとでは、学校経営も一般企業と変わることなく経営体のガバナンスがしっかりとしていないと存続危機の事態を招きかねないという共通認識があります。
- SNSの時代には、管理体制の問題はもちろん、学園関係者の不用意な言動が風評リスクを通じて信頼喪失そして募集力低下に直結することになります。一人ひとりのリスクに対する意識が従来以上に問われる時代になっているという自覚が必要です。
- 私学事業団方式の評価によれば、財務面では収益性や経費構造上の課題が明確であり、コスト意識とともに予算管理を中心としたPDCA管理の徹底が求められています。

中期計画の骨子

1. 基本的考え方

中期計画の骨子は以下のとおりですが、期間は2022年度～2026年度の5年間になります。



2. 中期計画アクションプランの共通テーマ

長期ビジョンの基本理念である100周年に向けた「持続発展可能な経営基盤の確立」のためには「募集力の維持・強化」と「管理体制・財務基盤の強化」という攻めと守りを同時に高いレベルで実現することが求められます。これらの課題は校園間、教学・事務間の協働・連携等全学横断的な対応が求められることから中期計画アクションプランの共通テーマとしました。

共通テーマ

- ① 募集力の維持・強化
- ② 管理体制・財務基盤の強化

3. 具体的な展開方法

中期計画アクションプランに基づき、全学、校園、本部・各事務室それぞれあるいは協働・連携して展開していきます。教育改革については「特色ある教育・学園ブランドの向上」に向けた教育実践の成果を今後の「持続発展」に必要な「募集力の維持・強化」につなげるため、特に「広報×教育改革」のシナジー効果の視点を重視していきます。ガバナンス改革についてはアクションプランの課題を中心に見直しを行い、引き続き体制整備を図っていきます。

展開方法

- ① 教育改革(全学・校園別)
- ② ガバナンス改革

事業計画

法人本部

No	施策種類	事業計画
1	重点取組事項	(1)SG90－100Plan(長期ビジョン・中計)の推進 ①第三次中計第5(最終)年度におけるアクションプランを学園内に周知し、進捗状況を管理します。(全学園でのPDCA継続)
		(2)100周年記念事業への対応 ①学生・生徒・児童・園児の安心安全に配慮して中庭の整備工事を進めます。 ②小学校リニューアル第4期(最終)工事を完了します。
		(3)建物・設備の更新 ①高等学校本館西面の外壁・防水工事を完了します。
		(4)創立100周年に向けて ①創立100周年記念事業・記念行事、記念誌発刊等にむけて最終準備を整えます。 ②100周年記念寄付金の募集を継続します。
		(5)ポスト100周年を見据えた第四次中期計画の策定着手 ①少子化の進展に備え、学校法人の経営が長期的に持続可能になるよう、事業構成の見直しに着手します。 ②各校園のクラス編成見直しなどで、教職員数の削減、総人件費の引下げを計画します。 ③効率化に向けて、事務局・事務室の運営態勢を見直します。
2	教育改革サポート	(1)教育・管理システムの高度化 ①小学校・大学のPC端末増設に伴い、ネットワーク通信の安定に繋げるために10ギガ光ケーブルによる通信高速化を図ります。 ②高校と総合ホール間を10ギガ光ケーブルに更改します。 ③生徒・児童・園児の個々に配慮すべき特殊事情に備え、本部に専担者を設置することで学園の対応力の強化を図ります。 ④北条地区キャンパスへのアクセス改善に向けて、定期便の運航等を検討します。
		(1)学生生徒等納付金の増収、及び経理の効率化 ①物品販売の販売と収納方法を見直し、WEB化を検討します。 ②経費削減を目的として出張旅費規程を見直します。 ③警備室の配置・警備員数を見直し、人件費・業務委託費を削減します。
		(2)改正私学法対応 ①改正私学法・改正寄附行為施行後、初の決算について、コンプライアンスを遵守しつつ、適正な準備と手続きを進めます。
		(3)人件費比率の適正化 ①校園別収支の変化に対応し、令和8年度期末手当の支給水準を見直します。
3	財務	(1)学生生徒等納付金の増収、及び経理の効率化 ①物品販売の販売と収納方法を見直し、WEB化を検討します。 ②経費削減を目的として出張旅費規程を見直します。 ③警備室の配置・警備員数を見直し、人件費・業務委託費を削減します。
		(2)改正私学法対応 ①改正私学法・改正寄附行為施行後、初の決算について、コンプライアンスを遵守しつつ、適正な準備と手続きを進めます。
		(3)人件費比率の適正化 ①校園別収支の変化に対応し、令和8年度期末手当の支給水準を見直します。

No	施策種類	事業計画
		<p>(4) 経営の合理化進展、効率的な財政運営、健全な財務体質の維持</p> <p>①学校法人の経営が長期的に持続可能となるよう、事業構成の見直しに着手します。</p> <p>②各校園のクラス編成を見直し、教職員数・総人件費の引下げを計画します。</p> <p>③事務局・事務室の運営態勢を見直します。(1. 重点取組事項とリンク)</p>
4	教職員の育成	<p>(1) 「教職協働」の定着</p> <p>①各校園との連携会議、連絡会を通じて、財務・人事・管財関連の個別課題を共有、早期解決を目指します。</p> <p>(2) 教員の組織的FD活動</p> <p>①個人研究費や自己研鑽手当等を利用した外部研修受講支援を継続します。</p> <p>②法人事務局各ライン事務のマニュアル化を進めます。</p>
5	人事制度全般の見直し・整備	<p>(1) 教職員の定員管理</p> <p>①有期雇用、定年再雇用教職員の業務範囲を見直し、活躍ポストを拡大とともに適切な世代交代にも注力します。</p> <p>②学園全体の教職員募集情報について、学園ホームページ上に一覧性のあるリンクを掲示します。</p> <p>(2) 管理職の育成</p> <p>①法人本部の経理課・給与課管理職の世代交代に向け、OJTを進めるとともに、人員態勢を整備します。</p> <p>(3) 給与体系の全般的な見直し</p> <p>①育児時短勤務の見直しや、有期雇用教職員の厚生制度の見直しなど、コンプライアンスを遵守しつつ、教職員の効率的かつ健全な働き方を追求します。</p>
6	組織・権限	<p>(1) コンプライアンス・ガバナンスの強化</p> <p>①改正私学法・改正寄附行為施行後、初の決算についてコンプライアンスを遵守しつつ、遅延なきよう準備と手続きを進めます。(3. 財務とリンク)</p> <p>②各校園の課題解決に向けて、スクールカウンセラーやスクールロイヤーとの連携を進めます。</p> <p>(2) 内部統制、リスク管理機能の強化</p> <p>①生徒・児童・園児の個々に配慮すべき特殊事情に備え、本部に専担者を設置することで学園の対応力の強化を図ります。(2. 教育改革サポートとリンク)</p> <p>②教職員のコンプライアンス遵守や事故の未然防止に向けて、内部監査部門の強化を図ります。</p>
7	広報	<p>(1) 戦略的広報体制の確立・展開</p> <p>①全学広報委員会の運営をサポートし、全学広報担当と大学・短期大学広報課、広報担当者間の情報交換により、各校園の連携を強化します。</p>

No	施策種類	事業計画
		(2)情報公開 ①改正私学法や補助金助成基準を上回る水準で開示項目の拡大を図ります。 ②図表・グラフ等による開示内容の充実を図ります。
8	施設整備・その他	(1)周年記念事業の竣工 ①学生・生徒・児童・園児の安心安全に配慮して、さんくすろーど(感謝の小径)の整備工事を進めます。 ②小学校リニューアル第4期(最終)工事を完了します。(1. 重点取組事項とリンク)
		(2)施設の適切な管理 ①高等学校本館西面の外壁・防水工事を完了します。 ②温水プールの修繕工事を継続します。 ③高等学校エリアのLED化工事を開始します。
		(3)危機管理と防災対策 ①四条畷駅前整備事業の竣工による交通環境の変化、さんくすろーど(感謝の小径)整備工事の進行に併せ、学生・生徒・児童・園児の安全管理を徹底します。

大学

No	施策種類	事業計画
1	重点取組事項	<p>(1)教育の質の向上</p> <p>①学修ポートフォリオ導入によりアセスメント・ポリシー各レベルの評価主体・時期に教育・学修成果を可視化・分析し、三つのポリシー(ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー)の達成度を評価し、継続的に必要な教育改善を推進します。</p> <p>(2)収容定員の充足</p> <p>①各学部の収容定員充足率の向上のため、看護学部は入学定員確保、リハビリテーション学部は入学定員充足に向け、入学者数の増加に努めます。</p> <p>②作業療法専攻への志願者増に向け、作業療法士に対する認知度向上に努めます。</p> <p>(3)学生支援</p> <p>①入学前及び初年次教育を通じて基礎学力向上、主体的学修習慣の醸成、人格形成、品性の向上も包含した医療従事者教育の充実を推進します。</p> <p>②アセスメントテスト結果や各種分析等に基づき、継続的な学生支援体制の改善とともに、各学生の資質・学力に応じた個人指導を行ない、退学者・休学者・留年者低減に向けた取組の強化に努めます。</p> <p>③初年次から国家試験対策を意識した指導を徹底し、理学療法士・作業療法士・看護師資格試験の高い合格率を目指します。</p>
2	教育内容・水準の充実	<p>(1)学生満足度の高い教育の提供</p> <p>①アセスメント・ポリシーに基づき、教育・学修成果を評価・分析し、これをふまえて学生満足度向上につながる教育改善をめざします。</p> <p>②ノウハウ共有化や内外の研修会への積極的参加、教員相互の授業参観等、さらにFD・SD活動の充実により、教職員の教育・指導スキルの向上を図ります。</p> <p>③ディプロマサブリメントの本格導入を目指した準備を進めます。</p> <p>(2)自己アセスメント体制の確立</p> <p>①自己点検・自己評価委員会が主導し、内部質保証のためのPDCAサイクルを有効に機能させます。</p> <p>②運営協議会構成員が認証評価での指摘事項に対する改善状況を点検・精査を実施し還元することによって、教育水準の向上に努めます。</p> <p>(3)ICTを活用した教育環境の整備と効果的な教育手法導入を引き続き検討します。</p>
3	教育・研究基盤の整備及び環境の充実	<p>(1)教育・研究環境の充実</p> <p>①科研費獲得や健康科学研究所研究支援資金の有効活用を推進します。</p> <p>②「教育の質保証」で求められる内容等を踏まえた、教育環境の整備に努めます。</p> <p>③実践教育センターが中心となり、大学施設を活用した卒業生等との交流やリカレ</p>

No	施策種類	事業計画
		<p>ント教育の拡大を推進します。</p> <p>④東南アジア等の海外大学との交流を推進します。</p> <p>(2)健康管理体制の充実 ①学生相談は担任教員・アドバイザー教員及びICPが担い、保健室には有資格者を配置し健康管理体制の充実を図ります。</p> <p>(3)卒業生ネットワークの充実 ①卒業生の情報データベースを構築します。 ②卒業生交流イベントの開催に積極的に取り組みます。 ③卒業生意見を教育の質の向上に活用できる仕組みを構築します。</p> <p>(4)施設の充実 ①リハビリテーション学部の授業の一部を清風学舎へ移すことにより学修環境の改善に努めます。 ②ラーニングcommonsスペース拡大や総合ホール図書館利用メリットを広く学生に周知し、さらにオンラインの図書活用を推進して、利用率の増加に努めます。</p>
4	社会貢献・文化活動の推進	<p>(1)積極的な地域貢献 ①大東市市制70周年、学園創立100周年を機に締結した包括的な連携協定により一層の社会貢献・地域貢献に努めるとともに本学の地域でのプレゼンス向上を図ります。 ②実践教育センターの活動の一つである市民公開講座の充実により、地域住民への貢献や交流に努めます。今年度につきましては、創立100周年記念公開講座として開催します。 ③障害者スポーツやリハビリテーション、あるいは老年看護学等の専門性を活かした助言や活動を通して、社会貢献に積極的に取り組みます。</p>
5	学生募集	<p>(1)積極的な広報活動 ① 学園創立100周年をアピールポイントとしたHPやSNS等の媒体を効果的に活用し、本学知名度の浸透を図ります。 ② 重点エリア並びに高大連携高校等の重点指定校に対し、各学科・専攻の特性を踏まえたきめ細やかなアプローチのもと、リハビリテーション学部オープンキャンパスの開催方法を改善し、確実に出願に繋がるように努めます。 ③ 学園高校との連携を通して、生徒及び保護者に対して医療分野についての理解が深まる広報活動等により内部進学者の増加に努めます。 ④ 特にリハビリテーション学部の入学者増に力点を置いて広報活動を展開します。指定校との個別分野における提携等関係強化により、指定校推薦による入学者の増加に努めます。</p>

No	施策種類	事業計画
6	進路対策・就職対策	<p>①キャリアセンターの機能向上により、効果的な就職活動を支援します。</p> <p>②実践教育センターを通じ、卒業生の転職・復職等を支援する人材バンク的機能をめざします。</p>
7	災害対策への取組	<p>「危機管理マニュアル」に基づき、防災訓練の実施等により、緊急災害時の対応力の向上に努めます。</p>
8	その他	<p>(1)学生サービスの向上</p> <p>①各種証明書発行のデジタル化を進め、学生の利便性の向上に努めます。</p> <p>(2)事務品質の向上</p> <p>コンプライアンス遵守を土台とし、多能化や業務の効率化を進め、リスク管理を強化します。</p> <p>①円滑な学生対応に向け、事務品質を維持・向上します。</p> <p>②外部研修会への積極的な参加により知識を向上、事務プロセスを改善します。</p> <p>③業務ミス、トラブル、ヒヤリハットを迅速に報告、問題点・対応策を共有し、リスク意識を強化します。</p>

短期大学

No	施策種類	事業計画
1	重点取組事項	<p>(1) 収容定員の充足 少子化の進行等による急激な外部環境の変化のもとで、募集定員を 100 名(保育 60 名、ライフ 40 名)に見直し、規模に適した運営体制の早期構築と募集活動の質や量ともに向上を図り、安定した入学者数の確保に努めます。</p> <p>(2) 教育の質の向上 短期大学における 3 つのポリシー(ティップロム・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー)に基づき、アセスメントポリシーに従って学修成果の達成状況を評価し、教育の質の向上に努めるとともに、早い段階から就職活動のサポートに努めます。 就職・進学支援を目的に、各種資格検定試験等へのサポート体制の充実に努めます。</p> <p>(3) 学生支援 学生の学びの状況等把握に努め、親身な生活・学習面のサポート、保護者との密な連携等により、休学・退学の可能性がある学生に対し丁寧な対応に努めます。</p>
2	教育内容・水準の充実	<p>(1)共通 創立 100 周年の節目として、教職員協働による学習環境の更なる充実と学生の学修機会の確保を図り、質の向上を目指します。</p> <p>① 「課題発見・対応能力」を高めるため、アクティブラーニング等の教育ツールを積極的に活用しコミュニケーション能力の向上に努めます。また、必要な教養・知識を備え、主体的行動ができる人材を育成します。</p> <p>②学生の満足度が高く、質の高い教育を提供します。</p> <p>ア.新入生全員に「入学に至る意識調査」を実施し、学習意欲や短期大学への期待を把握し、入学直後の指導を充実します。</p> <p>イ.到達目標達成評価表(ルブリック評価法)により、運用や評価方法等、評価者の理解力を高め、カリキュラムの改善について検討します。</p> <p>ウ.「授業評価アンケート」や教員相互による「公開授業参観」の実施、結果を踏まえ、「授業の質の向上」を図ります。</p> <p>エ.「ICTの活用」、「生成AIの活用」の可能性について検討を進めます。</p> <p>(2)保育学科 ①ピアノ等のマンツーマン指導による「音楽教育」、幼児を魅了する感性を磨く「美術教育」等の魅力ある教育を目指し、学内の学びを社会で実践する機会を設定することで、競合他校との差別化を図ります。</p> <p>②「指定園」の見直し、取組み強化を検討します。実習先との意見・情報交換の機会を増やし、事前・事後学習の内容を改善に努め、実習内容の一層の充実を図ります。</p> <p>(3)ライフデザイン総合学科 現実社会に対応し生き抜く力を育成します。社会や学生のニーズを的確にとらえ、授業内容を工夫し、各学生が「自分の適性」に気づく教育を行います。また、各スキルと就職先・キャリアパス</p>

No	施策種類	事業計画
		の関連を具体的に例示し、主体的にライフデザイン(人生設計)を描く能力を高めます。
3	教育・研究基盤および環境の充実	<p>(1)教育提携の在り方について、社会情勢や学生ニーズを踏まえ、学びやすい環境について検討します。</p> <p>(2)教育に関する最新情報の提供や職場での悩みに対する助言を通して、地域と協働の研究基盤の整備、検討に努めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大東市・四條畷市・門真市の各種委員会への派遣により、情報交換に努めます。 ・大東市、四條畷市との連携事業を通し実践・研究の質を高めます。 ・創立 100 周年を機にこれまでの各自治体との取り組みを振り返り、これからのより強固な関係性を構築すると共に地域プレゼンスの向上を図ります。 <p>(3)「なわてドリル(e-ラーニング)」の活用を推進し、基礎学力の向上に努めます。基礎学力と SPI 能力の連動性や対象科目の変更等を検討し、充実に努めます。</p> <p>(4)ICT の活用の 1 つとして「eBook」による図書館機能の充実、活用、利用を推進します。</p> <p>(5)科研費の応募をさらに推進し、採択件数の増加に努めます。</p>
4	社会貢献・文化活動の推進	<p>(1)地域住民および企業のニーズ等実態把握に努め、求められる「リカレント教育」について検討し、地域に貢献します。</p> <p>社会人リフレッシュ教育講座の新規講座の開講に向けて地域ニーズの把握に努め、参加者の増強を目指します。</p> <p>(2)地域・大学と連携し、創立 100 周年の年として従来にも増して教育活動や各種ボランティア活動を積極的に行い、文化祭(樟葉祭)においても 100 周年記念イベントを開催するなどして地域との接点を一層強化します。</p>
5	学生募集	<p>(1)重点エリアならびに高大連携高校をはじめとした重点指定高校へのきめ細やかなアプローチのもと、オープンキャンパス参加者の増強に努めます。また、オープンキャンパスにおいて、本学の魅力を最大限発信するとともに特色ある各種入試制度の周知により、出願者数の増強を図ります。</p> <p>(2)広報媒体の多様化ならびに高校教員との接点強化により、短大の魅力を伝えるべく、ターゲット層への発信力(わかりやすさ・見やすさ等)の強化、改善に努めます。</p> <p>(3)学校見学会・出前授業や短大生の実体験紹介を増やす等により、従来以上に学生の顔が見えるオープンキャンパスにします。</p>
6	内部進学	<p>(1)進路決定の早期化を受け、学園高校一年生に向けた体験授業の定着化と全学年に向けたキャリアデザイン授業の充実に努め、本学に対する理解を深めます。</p> <p>(2)高校・短大を通じて継続的に挨拶やマナー等の基本を教育する仕組み(情報交換、定期的な協議会)をとおり、「社会適応力」を高めます。</p>
7	進路対策・就職対策	<p>(1)教職員が一丸となって進路面談機会の拡充を図り、サポート強化に努めます。</p> <p>(2)大学進学(編入)希望者の個別相談に応じ、適確な支援を行い、就職以外の選択肢をアピールします。</p> <p>(3)卒業生が就職している企業を中心とした学内企業説明会やインターンシップの機会を増やし、</p>

No	施策種類	事業計画
		<p>学生の就職意欲の高まりに繋がります。また、学生の就職活動に係る保護者説明会を開催します。</p> <p>(4)従来に捉われることなく、多様化する学生の就職活動ニーズに合わせた支援を適時適切に行います。</p>
8	災害対策への取組	(1)「危機管理マニュアル」に基づき、防災訓練を実施する等の確かな災害対策、対応ができる体制の確立を目指します。
9	その他 施策種類	<p>(1)事務品質の向上</p> <p>コンプライアンス遵守を土台とし、多能化や業務の効率化を進めるとともに、リスク管理を強化します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・円滑な学生対応に向け、事務品質の維持・向上に努めます。 ・外部研修会への積極的な参加により知識の向上、事務プロセスの改善に繋がります。 ・業務ミスやトラブル、ヒヤリハットを迅速に報告、問題点や対応策を教職員が共有し、リスクに係る意識の強化、定着に努めます。 <p>(2)学生支援センターの活性化により、教育サービスの向上を目指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学・短期大学の共通プラットフォーム化の推進を図ります。 ・各事務室業務とのセグメント化を図り、事務効率化を推進します。

高等学校

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
1. 建学の精神と教育理念に基づく学校経営計画及び教育計画の策定・実践	(1) 理念・方針にもとづく教育計画の再構築	<p>① 創立 100 周年の節目。創立者の思いへの立ち返り。建学の精神と教育理念のもと、教職員はさらなる進化を目指し、教育活動に臨みます。</p> <p>② 年度の初めに、各学年・コース・各校務分掌で、教育理念・教育方針を踏まえた指導目標・教育活動計画を策定し、その目標の実現に努めます。</p>	<p>① 創立者の思いは、現在の教育活動にどのように引き継がれているのか。建学の精神と教育理念を再確認するこの 100 周年の節目。教職員は、その実践を次世代へ引き継ぐ意識を確かに持ち、次の 100 年に向けて新たに挑戦します。</p> <p>② 目標設定や計画策定は重要です。教員の自己評価平均 4.0 以上を目指します。(令和 7 年度 3.99)</p>
	(2) 教職員の資質向上と学校運営体制を改善・整備	<p>① 本校の特色を前面に打ち出し、新学習指導要領に沿った取り組みを実践していきます。</p> <p>② 教員の「授業力」向上のため、教務部と委員会を中心に、研修・会議・公開授業を活用し、教育課題や指導方法について話し合い有効な実践につなげます。</p> <p>③ より良い教育実践のために、教員間のコミュニケーションや連携を図ります。</p>	<p>①～③の自己評価は、全て 4.0 以上を目指します。</p> <p>③においては情報共有に加え、横の連携を図ります。</p> <p>(令和 7 年度① 3.99② 3.40③ 3.74)</p>
2. 高校生に求められる学力及び態度・諸能力の基盤の養成	(1) 主体的・対話的で深い学び(AL 授業)の実践	<p>① 基本的な知識・技能の習得のために分かりやすい授業改善に取り組み、内部での授業公開を定例化します。</p> <p>② 思考力・判断力・表現力の養成のための授業改善を行います。</p> <p>③ 課題発見能力と課題解決能力を養うための授業を実践します。</p>	<p>①～③の自己評価は、全て 4.0 以上を目指します。</p> <p>①の分かりやすい授業改善には組織的に取り組み、特に注力します。</p> <p>(令和 7 年度① 3.95② 3.95③ 3.77)</p>
	(2) 集団・社会に貢献できる態度・実行力	<p>① 基本的な生活習慣・態度・マナーを身につけるための指導をしっかりと行います。</p> <p>② 学級活動や行事を通して、協働や責任感などの社会性を身につける指導を行います。</p>	<p>①・②の自己評価は、全て 4.0 以上を目指します。</p> <p>①について特に注力します。</p> <p>(令和 7 年度① 3.89② 3.78)</p>

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
	(3)部活動を通して心身の鍛錬	①短い活動時間で集中し、技術や精神力など自らの心身を主体的に鍛える指導を実践します。 ②協調性や行動力など社会性を身につけるようチームワークを重視した指導を行います。	①・②の自己評価は、総合的に4.0以上を目指します。 (令和7年度①・②3.68)
	(4)市民性を育む教育	①18歳成人を見すえて、選挙権など含め市民性・主権者意識を育む教育を実践します。 ②よりよい地域を目指したボランティア活動等の集団的、体験的な活動並びに地域活動への参加を推奨し、実践的学習を推進します。	①・②の自己評価は、4.0以上を目指します。 (令和7年度①3.11②3.48)
	(5)国際的資質を育む教育	①海外からの研修生・留学生を受入れ、また、本校から研修生・留学生を派遣し、これからの社会に必要な国際感覚を育てます。	①自己評価は、4.0以上を目指します。 (令和7年度3.82)
3.人としての在り方・生き方を考え、他者と共により良く生きていくための人権意識の育成	(1)自己・他者と共により良く生きようとする態度	①学年別にテーマを決め、多様な人権問題への適切な理解と態度を身につける学習を実施します。 ②学級生活や活動を通して、多様な価値観を認め合い、仲間と共に調和して生活しようとする態度を養います。 ③いじめアンケートを学期ごとに実施し、普段から生徒の日々の様子をしっかりと観察することで、個人に応じたきめ細やかな指導を行います。	①・②の自己評価は、全て4.0以上を目指します。 (令和7年度①3.73②3.90) ③の自己評価は、4.2以上を目指します。いじめの早期発見と対応に一層努めます (令和7年度4.04)
	(2)一人ひとりのニーズに応じた指導	①様々な課題を抱える生徒一人ひとりをしっかり理解し、丁寧に対応し支援を行います。 ②生徒のニーズを把握し教職員が連携し、チームとして特別支援教育を実施します。	①・②の自己評価は、全て4.0以上を目指します。 (令和7年度①4.16②3.75)
4.進路目標の実現に向けて、未来を切り拓くキャリア教育・進路指導	(1)未来の目標を実現する能力	①生徒が自分の興味・関心・得意を知り進路目標を考える進路指導を行います。 ②職業に対する関心・意欲を高める体験的学習を実施し、キャリア教育を推進します。	①・②の自己評価は、全て4.0以上を目指します。 (令和7年度①4.01②4.03)
	(2)生徒の目標を実現させる進路相談・支援	①進学や就職にかかわる進路情報を提供し、丁寧で個性に応じた相談や助言を行います。 ②生徒のニーズに対応した放課後・休業中の講習を実施します。	①・②の自己評価は、全て4.0以上を目指します。 (令和7年度①4.05②3.32)
5.安心・安全な社会を築くための	(1)防災・減災に向けた防災教育・訓練を実施	①マニュアルに沿った避難訓練や地震・津波・火災等、防災・減災に向けた防災訓練を実施します。 ②自然災害に対する科学的理解を深め、防災意	①・②の自己評価は、全て4.0以上を目指します。訓練のみならず、科学的理

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
態度と行動力の養成		識を高める学習を実施します。	解を深めるよう努めます。 (令和7年度①3.53②3.18)
6.内部進学 の強化	(1)中高連携の強化	①中高連絡会議の内容の充実と、高校での教育内容の魅力をしっかりと中学生・保護者に提供し興味関心を深めます。 ②本学園中学生への進学相談において、親切・丁寧な対応をします。	①・②・③を実施することで、当学園中学校から専願第一希望者、25名以上を目指します。(令和7年15名)
	(2)高短連携の強化	①高短合同会議、高短連絡会を通して、高短の連携を密にします。 ②体験授業の実施やキャリアアテサインの授業を通して、内部進学への興味関心を深めます。 ③内部進学について説明会を実施し、先輩が社会人として活躍している様子を紹介、また、短大生の資格取得状況や、就職と編入学の状況を伝えることで、内部進学をアピールします。	①・②・③を実施することで、当学園短大への内部選抜A日程の受験者、30名以上を目指します。 (令和7年度20名)
	(3)高大連携の強化	①高大連絡会議をさらに充実します。 ②リハビリテーション学部・看護学部の志願者増加に向けて、医療に興味のある生徒に早期に内部進学をアピールします。 ③本学園大学の内部進学事前相談会を行うことで、内部進学者の増加につなげます。また、大学の体験授業を実施することで、それぞれの学部への理解を深めます。	①・②・③を実施することで、大学への内部選抜の受験者、20名以上を目指します。 (令和7年度18名)
7. 生徒募集 対策の強化	(1)募集・広報体制の整備	①募集広報部と専従者が連携し、広報活動をより強化します。 ②募集活動を効率よく行うために、統計的結果を基にして、計画を策定します。また、教職員が情報共有できるための研修を実施します。 ③活動予算の立案と効果的な企画を検討していきます。	○広報活動による情報提供や戦略の改善など募集広報全般の自己評価は、4.5以上を目指します。 (令和7年度4.31)
	(2)募集・広報戦略の改善	①従来からの中学校訪問や外部説明会・オープンスクールとともに、web 広告を有効的に活用し、より効果的な広報活動をします。 ②特色ある教育活動を tiktok などの SNS 動画で閲覧できるように、生徒目線で発信することで効	

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
		<p>果的な広報に繋がります。</p> <p>③教育活動内容やプログラムの情報を幅広く提供するための工夫として HP・パンフレット・リーフレットの充実を図ります。HP では、さまざまな教育活動の動画を作成し、活動の様子やクラブの学外での活躍などを積極的に発信します。</p>	
	(3)教育の特色の明確化	<p>①各コースの特色と実績を明確にするために、それぞれの生徒に合った進路選択ができるように努めます。</p> <p>②教育活動の充実と生徒の成長を図るために、生徒にわかりやすい授業の提供と、探究学習の充実を図ります。</p> <p>③教育理念に即した人を育てる教育の実践として、「実行から学べ」をテーマに生徒が参加し楽しめる企画を検討し、実施します。</p> <p>④特技を有する入学生が増加する対策を引き続き行っていきます。</p>	<p>①～④の自己評価は、総合的に 4.0 以上を目指します。</p> <p>(令和 7 年度 4.03)</p>
8. コンプライアンス	行動規範・リスク管理	<p>①学園の教職員として行動規範を意識します。</p> <p>②コンプライアンス遵守のリスク管理をします。</p>	<p>①・②の自己評価は、総合的に 4.0 以上を目指します。</p> <p>(令和 7 年度①・②3.85)</p>

中学校

【学校全体】

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
1. 建学の精神に基づく教育の実践と私学としての独自性	(1) 私学の独自性	<p>①創立100周年の節目を迎え、教職員が創立者牧田宗太郎の建学の想いに立ち返り、建学の精神、教育理念のもと、さらなる進化を目指し、教育活動に臨みます。</p> <p>②職員研修などを通じて、建学の精神・教育理念などを理解・実践します。</p> <p>③入学式・卒業式・全体集会などを通じて、建学の精神・教育理念について生徒に話をし、理解に努めます。</p> <p>④教育方針「個性の尊重」「実行から学べ」「明朗と自主」「礼儀と品性」に沿って、学校行事も含めあらゆる教育活動を通して、人格形成を図ります。</p>	<p>①100周年の節目に、創立者の想い(建学の精神・教育理念)が現在の教育活動にどのように引き継がれているのかを再確認し、新たに始まる次の100年に向け、その教育の実践を次世代に引き継ぐ意識を確かに持ち、新たに挑戦します。</p> <p>②教員による建学の精神・教育理念の理解・実践目標を4.3以上とします。 (令和7年度 建学の精神・教員4.3 教育理念・教員4.3)</p> <p>③諸式を通じて校長講話の中で、建学の精神・教育理念等をわかりやすく説明します。 (令和7年度生徒4.3 保護者4.2)</p> <p>④宿泊行事や社会見学など多彩な行事を通じて教育方針に基づいた活動を実践します。 (令和7年度生徒4.5)</p> <p>③④の目標は4.2以上とします。</p>
	(2) 生徒のニーズに対応した教育活動	<p>①授業評価を検証し、改善点を見出し、生徒にとってよりよい指導を行います。</p> <p>②発展探究クラスは、「総合的な探究学習(G</p>	<p>発展探究・発展文理の2つのクラス編成により、教育活動をより充実させます。</p> <p>探究活動など各教育活</p>

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
		<p>ーpro)」を授業に取り入れ、探究活動を通じて協働し自ら発信する力を養い、将来の進路を自ら実現させます。</p> <p>③ 発展文理クラスは、学年での探究活動に加え、日々の確認テストやハイレベルな目標設定を通じて、主体的に応用的な内容まで学ばせ、よりハイレベルな進路実現のニーズに対応します。</p>	<p>動を進化させるため、PDCAを繰り返し、発展させます。</p> <p>生徒がそれぞれのクラスカリキュラムに従い、活動を実践し、理解できるように努めます。(令和7年度生徒4.4 保護者4.2) それぞれの目標値を4.2以上とします。</p>
	(3)進路指導	<p>①生徒が、自ら夢に向かう進路実現ができるように、また、主体的により良い進路選択ができるよう、進路情報を提供するため、3年時2回の進路ガイダンスを行います。</p> <p>加えて、各担任による個別対応もしっかりと実践します。</p> <p>②自分の進路について主体的にまた積極的に考え、そのための進路を選択できる力を育みます。</p> <p>③個々の生徒に応じた目標を実現させるよう、3年の1学期より希望調査をとり、生徒・保護者との面談を大切にしながら進路相談や進路支援を行います。</p>	<p>① 生徒の将来を見据え、進路探究活動を通じて自己発見や進路選択のための情報を早期より提供します。(令和7年度生徒4.3 保護者3.9 教員4.6)</p> <p>目標は4.2以上とします。</p> <p>② 探究活動を通じて、自己肯定感を高め、自ら考え、進路選択できる力を養成します。</p> <p>③ 個々の生徒に応じた目標を実現させるよう、進路相談や進路支援を行いません。(令和7年度は生徒4.3 保護者3.9 教員4.5)</p> <p>4.2以上を目標とします。</p>

【学習指導・人権教育】

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
1. 学習面におけ	(1)教科指導	①各教科、シラバスに沿って指導し、グループ学習を取り入れ、「主体的・対話的で深い学び」	① シラバスに沿った指導、グループ学習やAL

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
<p>る、きめ細かい指導の実践と確かな学力の育成</p>		<p>の実現に向け、授業改善に取り組みます。</p> <p>②ICT機器(タブレット)を積極的に利用し、分かりやすい授業を目指し、創意工夫を行います。</p> <p>③学力の向上と定着をめざすため、早朝学習・放課後学習(自習室活動)・休暇中の講習を実施します。</p>	<p>を取り入れ、より一層内容定着の充実を図ります。目標を4.2以上にします。 (令和7年度 教員4.1)</p> <p>② 授業への創意工夫を行い、活動や教科等でICT機器の有効活用を通じ、効率的で分かりやすい授業の展開します。目標値を4.2以上にします。 (令和7年度教員4.4) 生徒・保護者による「ICT機器の利用など授業は分かりやすいか」には (令和7年度 生徒4.2 保護者4.1)と向上しています。一層の向上を目指します。 両者の目標値を4.2以上に設定します。</p> <p>③ 生徒の学力向上・学習の遅れている生徒の支援を個々の生徒の実態に合わせて行なう努力をしていますが、令和7年度は教員評価3.8と低いです。 生徒の学力向上への取り組みは、(令和7年度 生徒4.3 保護者3.9 教員4.4)で、保護者と生徒で開きがあります。内容充実に向け改革に挑戦し、4.2以上を目標と</p>

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
		④自らの課題に向けて考え、協働し、自己肯定感を高め、学習意欲を高めるために探究活動を実施します。	<p>します。</p> <p>④探究活動を通じて、生徒が「主体的・対話的で深い学び」を実現し、様々なことに興味・関心を持つ、意欲を得るようになることを目標とします。 (令和7年度教員4.3) 目標値は4.2以上とします。</p>
2. 人権を尊重する学校づくり	(1) 人権教育	<p>①「心のバリアフリー」の観点から、障がい者理解を深めつつ、人権感覚を持ち、相手の立場になって行動できるよう、日々の学校生活すべての活動を通して人権教育を行います。</p> <p>②いじめ等の予防、早期発見のため各学年、日直面談を行い、学期ごとに「仲間づくりアンケート」を実施し、クラスの現状を把握し、人権意識を育てます。</p> <p>③障がい者と外国人差別について(1年)、身分差別と平和学習(2年)、総まとめと進路について(3年)と学年毎にテーマを決め人権教育を行います。</p> <p>④12月の人権週間には中学校行事として、人</p>	<p>①教員は周囲の人を尊重し、よりよい人間関係を築いていく態度を養う教育を実践します。 (令和7年度教員4.4)であり、引き続き4.3以上を目標とします。</p> <p>②生徒・保護者による教員は「いじめ」への対応に前向きに取り組んでいるかについては、まだ保護者の評価が低いです。 (令和7年度 生徒4.2 保護者3.9 教員4.1) 日直面談等日々の情報収集の充実を図り、教員間で共有し、的確な指導にあたります。目標は4.2以上とします。</p> <p>③教員は人権に係わる様々な問題に関心を持ち、人権意識を高める教育を実践します。(令和7年度教員4.3) 4.3以上を目標とします。</p> <p>④人権講演会や道徳</p>

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
		権講演会を実施します。	的な行事については(令和7年度 生徒4.4 保護者4.1 教員4.3)で満足度はやや向上しています。ていねいな人権教育を継続し、目標値を4.2以上とします。

【学校生活】

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
1. 基本的な生活習慣の確立と安全で安心な学校づくり、および生徒支援を通じた豊かな人格形成	(1)生活指導	①個別の問題行動の対応にとどまることなく、基本的な生活習慣と規律ある態度を養う指導を行い、集団生活において社会性を身につかせます。 また、生徒にとって過ごしやすい生活環境であるために規則の改訂にも継続的に取り組みます。 ②重点を置いた指導として、生徒指導部が中心となり、乗車マナーの啓発や挨拶運動を実施します。	① 教員による、規則を守らせる指導、挨拶・礼儀を重んじるは(令和7年度3.9)でより向上が必要です。目標は4.2以上とします。 規則を守る態度を養う指導(令和7年度 生徒4.3保護者4.1)と向上していますが、個別最適化の中、教員の指導への工夫に努めます。引き続き4.2以上を目標とします。 ②(令和7年度生徒4.3 保護者3.9教員4.1)ですが、一層の啓発と努力が必要です。 生徒会を中心に積極的に挨拶運動を行い、学校月間目標により、さらに啓発を行います。目標値を4.2以上とします。
	(2)危機管理と情報公開	①教職員は生徒の安全が何よりも大切であるという認識を持ち、危機管理マニュアルを作成し、安全・安心な学校をめざします。また、災害	① 安心・安全な学校を目指すことに関して、危機管理マニュアルの点

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
		<p>に備えて備蓄品を整えます。</p> <p>②情報モラル講演会などにより、スマートフォン・タブレットなどの情報機器の正しい使用法を習得させます。 特にSNS、写真撮影等個人情報の公開の危険性、人権面での指導に力点を置きます。</p> <p>③学校ホームページの公開掲示板等で可能な範囲の教育活動や情報の公開を行います。</p>	<p>検・整備を行います。(令和7年度教員4.4) また、緊急時の警察、消防との連携・訓練等の学校安全対策も引き続き実践します。(令和7年度教員4.4) 4.3以上の目標とします。</p> <p>② 情報機器の正しい使い方では(令和7年度生徒4.4 保護者4.0 教員4.2)となりました。情報化が進む中、保護者が生徒を信頼し、安全に利用できるよう、保護者への情報モラル教育の共有と生徒へのモラル指導の徹底を図ります。4.2以上を目標とします。</p> <p>③ 情報公開については、努力により保護者の満足度が向上しています。(令和7年度 生徒4.7 保護者4.5 教員4.5)よりわかりやすい方法を模索し、4.3以上を目標とします。</p>
	(3) 学校行事や部活動	<p>①社会性や協調性の育成のため、部活動を奨励します。</p> <p>②情操面を豊かに育てるため、宿泊研修、校外学習、視聴覚行事、オリエンテーリングなど</p>	<p>① 部活動への参加を引き続き奨励し、社会性を育むよう努力します。(令和7年度 生徒4.2 保護者3.9)です。 4.2以上を目指します。</p> <p>② 多彩な行事の中で、協調性を持ちながら主体</p>

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
		<p>多彩な行事を充実させます。</p> <p>文化祭、体育会では生徒会を中心に、自主的に活動する姿勢を育てる機会にします。</p> <p>③全クラスでさまざまな行事と探究活動を結びつけ、発展探究クラスでは「探究(G-pro)」授業を充実させます。</p>	<p>的に考え、行動できる生徒を育てます。</p> <p>(令和7年度 生徒4.5 保護者4.3 教員4.6)</p> <p>新しい取り組みに挑戦し、より時流に沿った活動を目指します。</p> <p>4.3以上を目標とします。</p> <p>③ 主体的に活動し、協働し、表現できる生徒を育てます。</p>
	(4) 課題を抱える生徒への支援	<p>①生徒が抱えている問題に対して、きめ細かい相談・指導を行います。</p> <p>担当を中心に主任、クラブ顧問など多くの教員で情報を共有し、対応します。</p> <p>②問題解決の部署としてICP(臨床心理研究所)の存在の明確化をするとともに、生徒相談係を中心に相談しやすい環境づくりに努めます。</p>	<p>① 担任・学年は日直面談等きめ細かい支援に努力し、日々の生徒の状況を把握し、早期対応に努めます。</p> <p>(令和7年度教員4.1)</p> <p>引き続き、目標は4.2以上とします。</p> <p>② 面談等の満足度は、向上しつつあります。限られた時間の中でも個々の生徒に寄り添う気持ちで対応します。援助を必要とする生徒への対応を模索し、積極的に課題に取り組めます。</p> <p>(令和7年度 生徒4.0 保護者4.1 教員4.4)</p> <p>4.2以上を目標とします。</p>

【社会貢献】

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
1. 保護者・同窓	(1) 保護者・同窓会・後援会との	①保護者と協力しPTA活動を活発にするとともに、保護者・同窓会・後援会との連携し、文化	① PTA活動は、時流に合った形を目指し、努

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
会・後援会との連携と社会貢献	連携推進 地域の社会活動への協力	祭・体育会などの活動を支援します。 ②生徒会活動を通して復興支援やボランティア活動等で地域に協力します。	力を続けています。(令和7年度 保護者4.3 教員4.5) 充実した、取り組みやすい活動を目指します。 目標値4.2以上とします。 ② 生徒会活動は(令和7年度 生徒3.9)と生徒個々からの評価はまだ低いです。 より積極的な活動を目指します。目標値を4.0以上とします。

【生徒募集】

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
1. 生徒募集対策	(1)学外説明会の充実による受験者確保	①生徒による学校紹介、クラブ紹介や個別説明会、プレテストを実施します。また、発展探究・発展文理クラスの活動を紹介し、より一層の理解と共感を得るように工夫します。	① 中高広報サポート室開設4期目となります。全学的な広報活動の取り組みとして、客観的な検証ができつつあります。昨年度より、「広報中学校コンセプト会議」を実施し、これからの中学校の在り方の明確化に努めています。 課題を具体化し、わかりやすい広報活動につなげます。 説明会参加者数の前年度比増加に向け、効果的なオープンスクールのあり方を模索し、温かみのある受験生・保護者との関係構築を目指します。受験者数を増やし、入学者

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
			数160名以上の獲得を目標とします。
	(2)小中連絡会等による内部小学校との連携充実 内部進学者数の増加努力	①中学校紹介・進路相談コーナーなどを設置し、公開授業・体験授業などへの児童の参加を勧めます。 本校探究活動のあり方を理解してもらうよう努力します。 ②小中の系統的な学習が重要であることを自覚し、小学校・中学校それぞれの教員の専門性を融合させ、質の向上に努力します。私学における9カ年小中連携のカリキュラムや実践方法を協議し、組織的・計画的な取り組みを模索します。	①昨年度内部進学者数は36名と減少しました。小学校との連携を強化し、内部進学者を在籍者数70%以上を目標とします。(令和7年44%) また、小中合同研修をより充実させ、将来に向け、小中連動のあり方を模索します。
	(3)中高連絡会等による内部高等学校との連携充実	①各教員が内部高等学校の教育内容を十分に理解するように努力します。	① 高校の積極的な紹介、個別ブース等で理解を深め、学内進学は、在籍者数の20%以上を目標とします。
	(4)高校進学実績の強化	①生徒が自主的・主体的に選択できる、他私立学校にない進路指導を実現します。 多彩な高校への進路実績により、募集力向上に努めます。	① きめ細やかな個別指導や学習活動はもちろんのこと、特待生制度に加え、特待チャレンジ入試制度により、優秀な生徒の獲得を目指します。全体の進路実績強化につなげます。
	(5) ホームページの充実	①HPやSNSなどを通じて、受験生・保護者に学園の魅力をわかりやすく伝えます。	① 本学の教育の特長を説明する等ホームページを充実させます。 また、常にSNS等による最新の情報発信を実施し、温もりのある学校のイメージ発信に一層努力します。

小学校

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
1. 建学の精神を土台とした私学の独自性	建学の精神の理解と実践と教育計画の構築	<p>①創立100周年の節目を迎え、教職員が創立者牧田宗太郎の建学の想いに立ち返り、建学の精神、教育理念のもと、さらなる進化を目指し、教育活動に臨みます</p> <p>②職員研修などを通して、建学の精神・教育理念や方針を理解し、実践します。</p> <p>③小学校教育指針に基づく教育計画の構築し、実践します。</p>	<p>①100周年の節目に創立者の想い(建学の精神・教育理念)が現在どのように引き継がれているのかを再確認し、新たに始まる次の100年に向け、その教育の実践を次世代に引き継ぐ意識を確かに持ち、新たに挑戦します。</p> <p>②教育方針の具体化に関する教員自己評価4.3以上を目指します。(令和7年度4.2)</p> <p>③年間教育計画に関する教員自己評価4.3以上を目指します。(令和7年度4.2)</p>
2. 基礎学力の徹底と学園小独自のカリキュラムづくり	(1)基礎学力の徹底	一人ひとりの興味関心を大切に、学習に自信を持たせるように配慮し、意欲的態度や実行力を養いながら基礎学力の徹底を図ります。教職員は、学力向上の手立てを研究し、具体的な方策を検討・実践します。	<p>保護者アンケート「基礎学力向上を目指して努力している」の評価を4.0以上に向上します。(令和7年度3.8)</p> <p>学力向上に関する教員自己評価4.5以上を目指します。(令和7年度4.4)</p>
	(2)独自のカリキュラムづくり	①指導要領の内容に加えて、学園小独自に開発・改良を加えた学習を組み合わせ、より子どもたちにわかりやすく意欲的になれる授業を実践します。	①保護者、児童アンケートのうち、「教え方は工夫されている」の評価を保護者4.2以上、児童4.4以上に向上します。(令和7年度保護者4.1児童4.3)

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
		<p>②英語教育の充実・ICT機器を用いた各教科の効果ある授業の実践を目指します。</p> <p>4・5年生は、個人所有ipadを用いた学習プログラムを家庭と連携できるよう研究し、実践していきます。</p> <p>英語教育の学力向上を模索し、授業時数や内容を精選し構築します。</p> <p>③児童自身が考え、提案し、自発的に運営していける学習や活動を精選し、構築していきます。</p>	<p>②③わかりやすい授業の実践に関する教員自己評価4.6以上を目指します。(令和7年度4.5)</p>
	(3)教員の指導力向上	<p>①研究委員会とともに教員の指導力向上を目指し、研修を計画するとともに、定期的に学習内容を公開し、教育関係者の意見を参考に教育内容を精選、改善します。</p> <p>②外部研修への参加や個人研究・研修の支援制度をつかい、教員の指導力向上と研修内容を教職員間で共有し役立てることを目指します。</p>	<p>①計画的な教員研修に関する教員自己評価3.9以上を目指します。(令和7年度3.8)</p> <p>②外部研修への参加や個人研究・研修に関する教員自己評価3.5以上を目指します。(令和7年度3.4)</p>
3. 自律の意識を育むための基本的な生活習慣の育成	(1)基本的な生活習慣の育成	<p>①「何を」「どの機会に」しつけるかを熟慮し、規範を示すことにより、生涯にわたる自律の意識を育む指導を行います。</p> <p>②意識的に縦割り集団を組織したり、グループ活動を取り入れたりし、「みんなでいっしょに」「高学年を敬う」「低学年を育む」を常に考えさせることで、自律の意識を育みます。</p>	<p>①礼儀を重んじる態度に関する教員自己評価4.1以上を目指します。(令和7年度4.0)</p> <p>②保護者アンケート「子どもの主体性・自主性を育む環境が整っている」の評価を保護者4.5以上に向上します。(令和7年度4.4)</p> <p>主体性を重視した指導に関する教員自己評価4.4以上を目指します。(令和7年度4.3)</p>
	(2)規律遵守の向上	<p>児童は、きまりやマナーの意義を理解し、規律遵守の意識レベルの向上を図ります。また、教員がきめ細やかな指導に力を入れることを目指します。</p>	<p>児童・保護者アンケート「きまりやマナーの指導に力を入れている」の評価を保護者4.1児童4.5</p>

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
			以上に向上します。(令和7年度保護者4.0児童4.4) 規則を守る態度に関する教員自己評価4.2以上を目指します。(令和7年度4.1)
4. 社会性を培う集団活動の充実	社会性や市民性を育む体験活動	<p>①子どもの成長の糧となるもの、時代の要請に答えるべき行事を見極め、「何をこそ学ばせるべきか」を熟慮探求します。児童の学習意欲が出るように組み立てていきます。</p> <p>②集団生活を通して、子ども同士のコミュニケーション能力を培っていきます。また、子ども自身の活動を重んじ、実行を助け、その結果を常に振り返るように指導します。</p> <p>③それぞれの学年における体験活動のねらいや学習活動を系統立てながら実践していきます。</p> <p>また、体育会や秋祭りなどの全校行事、修学旅行などの宿泊行事をさらによりよき体験活動になるよう改善していきます。</p>	<p>①学習意欲の向上に関する教員自己評価4.4以上を目指します。(令和7年度4.3)</p> <p>②保護者・児童アンケート「子どもの友達関係はうまくいっている」の評価を保護者4.3以上児童4.6以上に向上します。(令和7年度保護者4.2児童4.5)</p> <p>③保護者、児童アンケートのうち、「行事は楽しく充実している」の評価を保護者4.8以上、児童4.9以上に向上します。(令和7年度保護者4.7児童4.8)</p>
5. 主体的な生き方の尊重	主体的な学び、共によりよく生きていく考えの形成	<p>①道徳教育 学級生活や道徳の授業を通して、多様な価値観を認め合い、共に生きていこうとする態度を養います。</p> <p>②人権教育 人としての在り方・生き方を考え他者とともによりよく生きていくための人権意識を育成します。いじめ等の予防、早期発見のため「いじめアンケート」や「日記」などから迅速に方策をねり、対応します。また、外部より講師を招聘し、人権講演を計画し、実践します。</p> <p>また、配慮が必要とされる児童に対し、教職員</p>	<p>①思いやりのある態度に関する教員自己評価4.6以上を目指します。(令和7年度4.5)</p> <p>②人権意識向上に関する教員自己評価4.1以上を目指します。(令和7年度4.0)</p>

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
		が適切な対応を考え、他の児童にも理解できるような指導を行えるように支援教育の研修を実施します。	
6. 安全安心な学校づくりを目指した教育環境の充実	(1)防災教育・不審者対策	児童の生命を守るために、地震などの一般防災に関する対策とマニュアルや不審者等の危機管理に関する対策とマニュアルなど緊急時の対応を常に再検討します。訓練を実施し、校内の安全性を高めます。特に課題の残った不審者対策は、児童の安全を最優先に、教職員が迅速に対応できるよう検討します。 また、災害に備えて備蓄品を整えます。	緊急時・防災訓練等安全対策の教員自己評価 3.7以上を目指します。 (令和7年度3.6)
	(2)危機管理と情報モラル	①自他の命を尊び、安全なくらしを希求する態度を育てることをめあてに、「非行防止教室」等の外部組織の研修を受け、一人ひとりの安全意識向上に役立てます。 また、児童が下校時に安全に電車やバスを利用できるよう駅に教職員が分担を決め見回ります。 ②学校管理下の事故未然防止を図るとともに、事故が発生した際、児童の生命と健康を最優先に迅速かつ適切な対応を行います。「小学校危機管理マニュアル」を作成し、校内研修を行います。 ③「情報モラル教育」授業を行い、携帯やパソコン等の情報機器の正しい使用法を習得させます。特に個人に係わる情報の公開の危険性は人権の観点からも指導します。	①②防災や安全に関する指導の教員自己評価 4.1以上を目指します。 (令和7年度4.0) ③マナー・モラルに関する教員自己評価4.4以上を目指します。(令和7年度4.3)
	(3)美化	①落ち着いた環境の下で、安全に学校生活を過ごせるように、教室や運動場等の美化に取り組めます。	①児童・保護者アンケート「学校の美化は行き届いている」の評価を、保護者4.5児童4.4以上に向上します。(令和7年度保護者4.4児童4.3) 美化に関する教職員の自己評価4.2以上を目指します。(令和7年度

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
		<p>②子どもに好ましい環境を目指し、遊具等の設置や補充を計画するとともに、老朽化した設備を修理・改修し、校内の安全性を向上します。今年度、小学校舎内の改修工事はほぼ終わります。しかし駅前改修工事に伴い、通学路や自動車送迎場所の移動工事が行われますので、その期間保護者に変更点を伝え、安全に登下校できるようにします。</p>	<p>4. 1) ②保護者アンケート「学校の施設設備は安全を考慮し整備されている」の評価を4. 3以上に向上します。(令和7年度保護者4. 2) 好ましい環境に関する教員自己評価3. 7以上を目指します。(令和7年度3. 6)</p>
7. 内部連携の強化	内部連携の強化	<p>①中学校 小中の系統的な学習が重要であることを自覚し、小学校・中学校それぞれの教員の専門性を融合させ、質の向上に努力します。私学における9カ年の小中連携のカリキュラムや実践方法を協議し、組織的・計画的な取り組みを模索します 中学進学者数が減少した原因を究明し、細やかな進路指導を行います。 また、小中連携をより深められるよう、連動のあり方を模索します。授業やクラブ体験を設け、中学の活動に親しみ、内部進学者数の増加に努め、募集活動を充実します。</p> <p>②幼稚園 「小1プロブレム」等の課題を踏まえ、幼稚園、保育所及び認定こども園と小学校との連携を一層強化し、子どもの学びの連続性を確保することが重要であり、幼小連携の取り組み方を再考し、教職員の連携を図ります。 幼少交流体験(絵本読み聞かせや幼少製作体験)を企画したり、小学校入試説明会・オープンスクールなどの広報活動を拡充し、進学者数増加につながるよう努めます。</p>	<p>①令和7年度は、内部学園中学進学者数は36/81名(44%)でした。(令和7年度中学入学者) 令和8年度学園中学進学は、内部進学者60%以上を目標とします。</p> <p>②令和7年度(令和8年度生)は、幼稚園からの内部進学者は27名でした。 令和8年度(令和9年度生)は、内部進学者40名以を目標とします。</p>

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
8. 児童募集の対策	児童募集対策	<p>①募集活動を効率よく行うために、統計的結果を基にして計画を策定します。それをもとに、小学校HP・リーフレット・パンフレットを作成し、いろいろなイベントにおいて広報活動を拡充します。</p> <p>②募集方法や手段・時期を検討し、より多くの私立小学校進学希望者に、web広告を有効的に活用し、本校に興味を抱かせ進学につながるよう効果的な広報活動を行います。</p> <p>③内部幼稚園受験者を増やすために、幼小合同カリキュラムを作成し、そのプログラムを企画し実践していきます。</p> <p>④外部幼稚園やこども園、幼児教室での入試説明会や体験授業を実施し、外部からの受験者増加につなげます。特に前年度本校進学予定者の幼稚園・こども園には、幼小連携や広報活動を行うため、訪問します。</p> <p>⑤私立小学校受験希望者に、本校の教育方針や特色の理解、教育活動を賛同してもらえるよう、インスタグラムなどのSNSで利用し、より多くの保護者に広報活動に役立てていきます。</p>	<p>①学校ホームページ等の情報提供に関する教員自己評価4.1以上を目指します。(令和7年度4.0)</p> <p>②令和7年度(令和8年度入学生)は60名でした。(令和8年1月現在)令和7年度は募集定員充足80名以上を目標とします。</p>

幼稚園

No	施策種類	事業計画
1	乳幼児を取り巻く状況	<p>(1)乳幼児を取り巻く全般的状況</p> <p>①出生数の継続的減少と将来見通し 全国的に出生数は長期的な減少傾向にあり、今後も少子化の進行が見込まれます。2026年度は丙午にあたりますが、社会環境の違いから、1966年当時と同様の急激な減少が生じる可能性は高くないと考えられます。一方で、出生動向については引き続き慎重に見極める必要があります。</p> <p>②入園行動の早期化 共働き世帯の増加等により、保護者の入園行動は0～1歳期へ前倒しされ、幼稚園においても満3歳児での受け入れを前提とした募集へ移行しています。その結果、3歳児での新規入園に依存した園運営は成り立ちにくい状況となっています。</p> <p>③0～2歳児支援をめぐる制度動向 3～5歳児は無償化が実施されている一方、0～2歳児は限定的な無償化にとどまっています。今後、0～2歳児支援が拡充された場合には、幼稚園の3歳以降の新規入園がさらに減少する可能性があります。</p> <p>(2)本園を取り巻く状況</p> <p>①園児構成の変化と通園圏の縮小 本園においても園児数は減少傾向にあり、特に1号認定こどもの減少が顕著です。また、通園圏は縮小し、遠方からの入園は減少しています。</p> <p>②3歳児新規入園の減少 3歳児での新規入園は少数にとどまっており、満3歳以前からの関係づくりが不可欠となっています。</p> <p>③2号認定をめぐる制度的制約 行政方針により2号認定の定員拡大は困難である一方、新2号認定については預かり保育により対応していますが、制度上の費用負担の課題があります。</p> <p>④企業主導型保育園を有する特性 四條畷学園は企業主導型保育園(四條畷学園保育園)を有しており、市町村主導の無償化の対象外となる可能性がある一方、学園独自の判断により利用者負担を軽減する余地があります。</p> <p>⑤学園保育園の認定こども園化に関する判断 四條畷学園保育園は、関係自治体における定員制約や複数市町村から園児を受け入れている実態を踏まえると、幼稚園と統合して認定こども園とすることは、実務上困難であると判断します。</p>
2	基本的な方向性	<p>以上の状況を踏まえ、今後は就労家庭を中心とした利用構造を前提とした運営が不可欠であると考えています。</p> <p>四條畷学園では、年齢段階および家庭の状況に応じた役割分担のもと、0～2歳児</p>

No	施策種類	事業計画
		<p>の就労家庭については学園保育園が受け入れを担い、マタニティ期から2歳児の家庭保育層および満3～5歳児については本園が担います。</p> <p>この役割分担により、両施設がそれぞれの制度的特性と専門性を生かしながら、学園全体として乳幼児期から就学前まで一貫した育ちを支えてまいります。</p>
3	園運営の基本方針	<p>(1) 創立100周年を踏まえた教育の基本的な考え方 本学園は、2026年度に創立100周年という節目を迎えます。 この節目にあたり、教職員一人ひとりが、創立者・牧田宗太郎の教えをあらためて確認し、その考え方が、現在の日々の教育・保育の実践の中でどのように受け継がれているかを見つめ直すことを、本年度の基本的な考え方の一つとします。 具体的には、日々の教育・保育の取組を、創立者の語録を拠り所として振り返り、学園の歩みと現在の実践とのつながりを確認することを通して、建学の精神に基づく教育の軸を教職員間で共有し、私学としての特色ある教育を、安定的かつ継続的に実践していくことにつなげてまいります。</p> <p>(2) 教育の核としてのヨコミネ式教育法の推進 本園では、ヨコミネ式教育法を教育・保育の中核に据え、3～5歳児期における教育の質を重視した保育・教育を行ってまいります。</p> <p>(3) 乳児期と幼児期の機能分化による連携強化 0～2歳児期は生活援助・安全管理を重視した保育を行い、3～5歳児期は教育的要素を重視した保育・教育を行うという機能分化を前提といたします。 その上で、学園保育園との連携を強化し、発達段階に応じた円滑な接続を図ってまいります。</p> <p>(4) 無償化動向を踏まえた柔軟な対応 自治体および国の0～2歳児支援の動向を注視しつつ、企業主導型保育園として可能な範囲で、学園独自の利用者負担軽減策について検討を行ってまいります。</p> <p>(5) 規模拡大を前提としない持続可能な運営 出生数の減少や入園行動の変化等を背景として、園児数を取り巻く状況は厳しさを増しています。 このため、園児数の維持を前提とした現実的な運営に徹し、適正な規模を見極めながら、教育の質と教職員体制の維持を最優先とした園運営を行ってまいります。</p>
4	現状整理と課題	<p>本事業計画は、少子化、制度制約、人材確保の困難さといった現実を前提とし、無理な拡大や制度転換を行うものではありません。</p>
5	教育・保育内容の充実	<p>(1) ヨコミネ式教育法の定着 2025年度に引き続き、ヨコミネ式教育法を本園の教育・保育の中核として位置づけ、2026年度は実践の定着と安定を図ります。 体系化された指導内容に基づき、かけっこ、体操、読み書き計算に加え、挨拶や身支度、集団生活の規律など生活面の指導を日々の保育に取り入れ、園全体として安</p>

No	施策種類	事業計画
		<p>定した教育・保育の質を確保します。</p> <p>あわせて、幼児期の育ちを小学校教育へ円滑につなぐ視点を重視し、年間指導計画および日々の保育計画において共通理解を図ります。</p> <p>(2)教職員の規律と行動規範の改革</p> <p>教育・保育の質を支える基盤として、教職員が専門職としての自覚と責任を持ち、規律ある行動と統一した対応を徹底します。</p> <p>あわせて、上位免許状の取得支援等を通じて専門性の向上を図り、園全体として教育・保育の質の一層の向上に努めてまいります。</p> <p>(3)次世代人材の育成</p> <p>園運営の持続性を確保するため、日常業務や行事運営への参画を通じて、次世代を担う人材を計画的に育成してまいります。</p> <p>個々の経験や適性を踏まえ、段階的に役割や責任を担わせることで、実践を通じた成長を促します。</p> <p>また、過度な負担とならないよう配慮しつつ、意欲と適性のある人材については、園運営の一端を担う経験を積極的に付与し、主体性と責任感を育むことで、将来の中核人材としての育成につなげてまいります。</p> <p>(4)幼稚園における2歳児教育と乳児保育との役割整理</p> <p>0～2歳児については、3号認定相当の保育ニーズを有する子どもは四條畷学園保育園が担い、それ以外の2歳児については、四條畷学園大学附属幼稚園において受け入れを行います。</p> <p>幼稚園では、未就園児向けプログラム(ひよこ組)および2歳児クラス(りす組)を設け、子どもの発達や家庭状況に応じた教育的保育を行います。</p> <p>学園保育園との役割分担のもと、幼稚園としての教育的保育の充実に努めます。</p> <p>(5)安定的な運営の重視</p> <p>2026年度は、少子化や入園行動の変化により園児数の維持自体も容易ではない現状を踏まえ、教育・保育体制に負担を生じさせる事業拡張は行わず、既存の教育・保育体制の維持と安定を最優先とします。</p> <p>人員配置や専門性の面で無理のない体制のもと、教育の質の維持・向上と職員の負担軽減の両立を図るとともに、おやこ食堂(こども食堂)については、教育・保育体制に過度な負担を生じさせない形で実施します。</p> <p>また、保護者対応や判断に迷う事案については、教職員個人の判断に委ねるのではなく、管理職が関与し、園として組織的に対応します。</p>
6	園児募集	<p>(1)通年募集を基本とした園児募集</p> <p>3歳児での新規入園が少数となっている現状を踏まえ、2026年度も2歳児段階からの通年募集を基本とします。</p> <p>未就園児向けプログラム(ひよこ組)、2歳児クラス(りす組)への4月入園および満3</p>

No	施策種類	事業計画
		<p>歳児からの入園など、複数の入園経路を設け、幼稚園生活への円滑な接続を図ります。入園説明会や園庭開放等を通じて、通年での園児募集に取り組みます。</p> <p>(2)教育の質と体制維持を最優先とした募集方針 本園では、幼稚園としての教育の質と職員体制の維持を最優先とした園運営を基本としています。 2026年度は、園児数の確保を目的として教育環境や運営方針を変更することは行わず、教育的保育の内容と体制を重視した募集を基本方針として運営してまいります。</p> <p>(3)地域との関係づくりを重視した募集 園児募集にあたっては、短期的な入園者数の確保よりも、地域との継続的な信頼関係の構築を重視します。 未就園児向けプログラムや園庭開放等を通じて、本園の教育方針や日常の雰囲気を知っていただく機会を設けます。</p>
7	地域貢献と子育て支援	<p>(1)地域貢献の位置づけの見直しと基本的な考え方 これまで本園では、地域貢献や子育て支援を園児募集につなげる取組として位置付けてきましたが、2026年度以降は、地域に貢献すること自体を本園の重要な役割として明確に位置づけます。 これらの取組を通じて地域からの理解や信頼を醸成し、入園の有無にかかわらず、地域に根ざした幼稚園としての公共的役割を果たしてまいります。</p> <p>(2)未就園児・子育て家庭への支援 本園では、地域における子育て支援として、マタニティ・0歳児親子教室および1歳児親子教室を継続して実施します。 これらの取組は園児募集を目的とするものではなく、子育て家庭が安心して集い、相談や交流ができる場として、乳幼児期の子育てを支えてまいります。</p> <p>(3)地域に開かれた幼稚園としての取組 本園では、親子教室や園庭開放等の取組を通じて、入園の有無にかかわらず地域に開かれた幼稚園としての取組を実施します。 必要な安全管理体制を整え、教職員や看護師による相談対応を行い、地域の子育て家庭を支えてまいります。</p> <p>(4)おやこ食堂の位置づけと対応 おやこ食堂は、地域の子育て家庭を対象に、親子が安心して集い交流できる場を提供する子育て支援の取組です。 本園では、2026年度から新たに本取組を実施し、子どもおよび保護者ともに無償とする非営利の事業として、学校法人の教育活動および地域貢献活動の一環として、関係法令に配慮しながら適切な方法と規模で取り組んでまいります。</p>

No	施策種類	事業計画
		<p>(5)地域貢献と園運営との関係性(総括)</p> <p>本章の取組を通じて地域からの理解と信頼の醸成に努め、結果として本園の教育方針への共感や園運営の安定につながるよう、園運営との両立を図りながら継続して取り組みます。</p>
8	制度変化への対応と運営体制の整理	<p>(1)基本的な考え方</p> <p>少子化の進行や保育制度の見直しなど、乳幼児を取り巻く環境が大きく変化する中、2026年度においては、新規事業の拡大を目的とするのではなく、園の運営体制および教育・保育の質を維持・確保する観点から、各制度への対応方針を整理します。</p> <p>(2)認可外保育事業(満2歳児預かり)への対応</p> <p>満2歳児の預かり保育については、共働き世帯のニーズが高い一方で、安定した人員配置や乳児保育に係る専門的な知識・経験が不可欠となります。</p> <p>本園においては、現状の園児数や人員体制を踏まえると、満2歳児預かりを無理に拡大することは適切ではないと判断しています。</p> <p>2026年度においては、四條畷学園保育園および既存の2歳児クラス(りす組)との役割分担を前提に、現行の体制を維持しながら、園全体の運営状況を見極めて対応してまいります。</p> <p>(3)新2号認定こどもへの対応</p> <p>新2号認定こどもについては、例年どおり預かり保育の充実により対応します。</p> <p>行政方針により2号認定の定員拡大が困難な中、共働き世帯の保育ニーズに応える補完的役割として、教育方針を維持しつつ、教職員の負担に配慮しながら継続的に対応してまいります。</p> <p>(4)こども誰でも通園制度への対応</p> <p>こども誰でも通園制度については、2025年度の試行結果を踏まえ、補助水準が運営実態に見合わないことから、2歳児クラス(りす組)での実施は2026年度は行いません。</p> <p>一方、未就園児向けプログラム(ひよこ組)については、地域の子育て支援としての意義を踏まえ、2026年度も継続して実施します。</p> <p>本制度については、園運営への影響を踏まえ、教育・保育の質と運営の安定を損なわない範囲で対応してまいります。</p>

本園は、本事業計画に基づき、幼児期を取り巻く環境が大きく変化してきている現状を的確に捉え、その変化に柔軟かつ着実に対応しながら、子どもたち一人ひとりの健やかな成長を支えてまいります。

あわせて、地域社会における子育て支援の充実にも引き続き取り組み、幼稚園として果たすべき役割を着実に果たしていく所存です。

今後とも、本園の取組につきまして、皆さまのご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

保育園

No	施策種類	事業計画
1	基本方針(創立100周年を踏まえた保育の考え方)	<p>本学園は、2026年度に創立100周年を迎えます。</p> <p>保育園は、0～2歳児を対象とする、学校法人四條畷学園における最初の入り口であり、子どもと保護者が、はじめて学園の教育・保育に触れる場です。</p> <p>この重要な役割を踏まえ、創立者・牧田宗太郎の「人をつくる教育」の理念を拠り所として、子どものいのちと安全を最優先に、安心して育ちを委ねられる保育を日々積み重ねることを、本園の基本的な考え方とします。</p> <p>日常の保育実践を通して学園の原点を体現し、学園全体へとつながる信頼の基礎を築いてまいります。</p>
2	重点取組課題	<p>(1)事故防止対策の強化</p> <p>事故の発生削減と重大な事故を未然に防ぐために教職員の安全教育を徹底します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部研修への参加、マニュアルの熟読等 ・ヒヤリハット報告・事故報告の月ごとの集計など教職員間の情報共有 ・午睡時の突然死防止のため睡眠中は仰向けにし、1人にしないなどの見守り強化 ・食べ物や玩具、小物等による誤嚥リスクの注意徹底 ・安全点検の実施 ・食中毒防止の徹底 <p>(2)感染症対策の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・流行している感染症の知識習得・情報収集に努めます。 ・施設、備品等の消毒を徹底します。 ・保育室の換気、室温、湿度等に十分留意します。 ・教職員の健康管理を徹底します。 <p>(3)学園幼稚園との連携強化</p> <p>施設の共同利用、行事への参加、合同保育等より連携を強化し、保育レベルの向上、内部進学強化を図ります。</p>
3	保育の質の確保・向上	<p>(1)教職員の資質・専門性の向上</p> <p>園外研修、園内研修について計画的な受講を通して、教職員等の資質・専門性の向上に努めます。園内研修では外部講師を招いて、学園幼稚園と同様にヨコミネ式教育法の習得・向上を図ります。</p> <p>(2)設定保育の強化・充実</p> <p>かけっこ・体操、造形表現、リズム、学習[文字・数字・国旗など]、絵本の読み聞かせをより一層強化・充実させます。 地理をぬく</p> <p>また、専門家による設定保育を、教職員が共に行うことにより、教職員の保育スキルの向上に努めます。</p> <p>(3)保育体制の充実</p>

No	施策種類	事業計画
		<p>休憩対応保育士の配置、配置基準以上に教職員を配置する等保育体制を充実し、向上を図ります。</p> <p>(4)インクルーシブ保育の充実 インクルーシブ保育についての専門知識の習得・実践に務めます。</p>
4	働き方改革への取り組み	<p>(1)DXの推進 コドモン、ビジネスチャット等の活用によりデジタルシフトを推進し、教職員の事務負担を軽減するとともに保護者の方の利便性にも配慮します。</p> <p>(2)ペーパーレスの推進 必要なもの以外は紙での配付等を廃止し、事務負担を軽減するとともに保護者の方の利便性にも配慮します。</p>
5	保護者満足度の向上	<p>(1)休園をしない体制 園事情による休園をしない体制をつくります。</p> <p>(2)保育映像の提供 保育風景を録画し、YOU TUBEの限定公開機能により自宅等で見る機会を継続的に提供します。 [注]公開期間は短期間に限定。URLを秘匿し検索できない設定とします。</p> <p>(3)情報の共有化の推進 ビジネスチャット、コドモンを通して、保護者の方と園との必要な情報をタイムリーに共有します。</p>
6	社会貢献・文化活動の推進	<p>(1)地域枠の設定 地域枠の設定により、地域の待機児童、保留児童の解消に貢献します。</p>
7	園児募集	<p>(1)内部関係者への告知の強化 学園の教職員、保護者の方等への継続的な広報等により保護者会・同窓会・後援会等の学園関係者への認知度を向上に務め、安定的な園児確保につなげます。</p> <p>(2)WEBサイト、SNSによる広報の充実 WEBサイトの充実を図り、園の認知度を向上させ、園児募集につなげます。</p> <p>(3)歳児別人数の適正化 園児の歳児別定員にそった園児募集を心がけ、歳児別人数にばらつきがないようにします。</p> <p>(4)キャンセル待ちの確保 キャンセル待ちの園児を常時確保し、園児が途中で退園してもすぐに欠員を補充できる体制をとります。</p>

No	施策種類	事業計画
		(5)自社枠の確保 令和5年度より義務化された自社枠の定員枠について、学園の教職員への告知を強化します。

主な新規事業計画

[注]投資額順(降順)に掲載。

No	事業名称	担当校園
1	学園エントランスリニューアル工事(2年目/2年)	本部
2	小学校リニューアル工事(4年目/4年)	小学校
3	市道 北条四條躰北線 購入	本部
4	温水プール 施設設備改修工事(4年目/9年)	高校
5	高校エリア 普通教室 LED 化工事	高校
6	高校本館 外壁(西面・北面)補修工事(3年目/3年)	高校
7	東グラウンドLED 化工事	高校
8	飯盛嶺校舎 放送設備更新工事	高校
9	学修ポートフォリオ機能導入	大学(看護・リハ)
10	保育室1室 床暖房新設工事	幼稚園
11	各棟 外壁調査	各校園
12	中学校 排煙窓装置改修工事	中学校
13	中学校 外壁補修工事	中学校
14	オンライン決済システム導入	本部
15	幼稚園 1階南側トイレ改修工事	幼稚園
16	教職員用 iPad 購入	小学校
17	授業用クロームブック更新	高校
18	幼稚園 玄関電気錠設置工事	幼稚園



Shijonawate Gakuen

